

専門分野			
人文科学、外国語教育学、応用言語学、ビジネスイングリッシュ			
研究課題			
商学（マーケティング）、応用言語学、TESOL、ESP（専門目的用英語）、言語教育プログラムマネジメント			
教育活動			
担当授業科目(学部)			
Intensive Practical English, Study Abroad Prep, Intro to Career English, Project, Junior Seminar, and Senior Seminar – Canadian Studies			
担当授業科目(大学院)			
事項	年月	対象者	概要
教育方法の実践例			
甲南大学 “Business Strategy”、同志社女子大学国際教養学科 “Business Principles & Applied Practice” クラスにおける実践例:	平成 23 年 4 月 ~ 平成 25 年 3 月	大学 1、2、3 回生	現実社会での財務・マーケティングの業績に関して決断を行う、オンラインのビジネス・シミュレーションゲームを取り入れた授業を行った。
関西学院大学 “Intermediate English” クラス、甲南大学 “Business Communication” クラス、同志社女子大学国際教養学科 “TOEFL EAP Speaking and Writing Skills” クラス、帝塚山学院大学 “Intensive Practical English” クラスにおける実践例:	平成 19 年 4 月 ~ 平成 28 年 4 月	大学 1、2 回生	出席数を評価の対象とするコースにおいて、週ごとの Participation Card を用い、授業に対する学生の意見を収集すると同時に、授業における学生のペア、グループでの活動成績を記録した。
作成した教材・資料集			
Business Communications (Teacher’s Handbook)	平成 24 年 3 月	常勤・非常勤講師および学生	常勤・非常勤講師および学生のための、さまざまな分野にわたる指導教材およびワークシート等のリソースをまとめた、総合的なハンドブック。 Business Communications (Teacher’s Handbook) – comprehensive set of teaching materials & worksheet resources for full time and part-time instructors and students
ラフィックオーガナイザー・ワークシート	平成 24 年 3 月	大学 1、2 回生	コンテンツベースの American Studies コースで使用する、リーディング、ライティングにおける critical literacy を身につけるための、グラフィックオーガナイザー・ワークシート。 Graphic organizer worksheets for critical literacy in reading and writing on themes in a content-based American Studies course
TOEFL iBT 向け教材	平成 25 年 9 月	大学 1、2 回生	TOEFL iBT 向けリーディング・スキルを学ぶための補充ワークショップにおける講義および演習に使用する教材。 Supplementary workshop lecture and materials for TOEFL iBT Reading skills & practice

その他教育活動上特記すべき事項				
なし				
研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単 共 の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD 等				
なし				
学術論文				
Are CUBE students irrational? Predictably: An annotated book review'	単	平成 24 年 3 月	Hirao School of Management Review 第 2 巻、pp. 66-84 (甲南大学) ISSN 2186-0165	(概要) 本書で述べられている行動経済学の複合概念に注目し、本書の具体的な内容のいくつかを、日本の甲南大学マネジメント創造学部の学生から得られた調査データと比較対照する。その結果、CUBE の学生 (96 名) は、消費者としての意思決定に関し、いささか不合理な面を見せるが、Ariely が自分の学生たちにおいて観察したような劇的な転換は見られない。
Formulaic language cards for active discussions	共	平成 24 年 5 月	Pragmatics: Bringing Pragmatics to Second Language Classrooms 第 3 巻 JALT Pragmatics SIG  Goals, Procedures 3-5, Caveats and Options (2), Rationale	(共著者) Truscott, G.・Rouault, G. 定型言語表現にサポートを提供する、ディスカッション語用論のためのクラスルーム・アクティビティ。これは、さまざまなトピックについて意義深い長時間のディスカッションを行い、多数回の話者交替をうまく行う機会を提供し、ディスカッションにおいてアクティブな貢献をするために文化的に期待されていることを学習者が学べるよう支援しながら、実用的な中間言語を構築することを目的としている。
Components of pre- and post-reading interest in graded readers	共	平成 24 年 7 月	Extensive Reading World Congress Proceedings 第 1 巻、pp. 68 ~ 70 Extensive Reading Foundation p. 69 Results, p. 70 References	(共著者) Eidswick, J.・Rouault, G. ・Praver, M. (概要)「グレイデッド・リーダー」を読む前と後で、それらに対して持った興味・関心、または興味・関心のなさを調査し比較する研究に関する実験的調査論文の概要。研究の結果、指定された小説には、興味を呼び起こす要素、およびつまらないと感じさせる要素が幅広く含まれており、また、読前、読後でその興味・関心の高さが大きく変化する小説があること、さらに、読む前に内容についての知識を持っていることは、いくつかの点で興味・関心の持ち方に影響(プラス、マイナスの両方の影響がある)を与える可能性があることも明らかになった。

Using reading circles to blend independent study with in-class peer interaction	共	平成 24 年 7 月	Extensive Reading World Congress Proceedings 第 1 巻, pp. 145~147 Extensive Reading Foundation p. 145, p. 146 Results and Discussion, p. 147 References	(共著者)Rouault, G.・Eidswick, J.・Praver, M.授業における多読(ER)アクティビティに関する実験的調査論文の概要。リーディング・サークルのディスカッションに参加する際の、楽しさ、容易さ、緊張、語学学習における有用性に対する学生の態度を調査するアクション・リサーチについてのレポートである。
AILA 2011 conference report and World Congress 2014 preview	単	平成 25 年 1 月	The Language Teacher - Grassroots, 第 37 巻 1 号, pp. 46-47 JALT Publications	(概要)学会での発表者の視点から見た、学会レポートおよび主要な応用言語学学会の概要。
An e-course application for academic reading skills: A CALL-based innovation	共	平成 25 年 3 月	Konan University Bulletin of the Center for Education and Research Information, 第 12 巻, pp. 1-21.	(共著者)Rouault, G.・Freeborn, P.海外留学を控えた学生のためのアカデミック・リーディング・コースに対し、CALLベースの新方式を活用することについて検討する調査レポート。外国語でのリーディングと自律学習に関する理論に基づき、この授業実践を描写することにより、ある特定の e-コース・リソース一式について、その特色およびその長所・短所、さらに、学生からの感想も概説している。
Language analysis and graphic organizers for evidence of critical literacy in content area reading.	単	平成 25 年 3 月	JACET Summer Seminar Proceedings, 第 11 巻, pp. 55-59	(概要)言語を理解し、専攻学科でのリーディングにおいて意味を理解するためのクリティカルリテラシーを高めるツールとしての functional language analysis に着目した、教育方法に関する論文。コンテンツベースのコースにおいて、学習者が分野別のインテンシブ・リーディングにより的確に対応できるようにするための方策として、テキストの構造および談話の特性をグラフィック・オーガナイザー(GO)で概説させることが導入された。言語分析および GO は、批判的考察および学習への関与をサポートすることに役立った。ただし、日本の大学生が、単なる記憶作業ではなく、より高次のプロセスや学習のために text explicit、text implicit、script implicit のそれぞれの形での受け答えを活用するためには、さらなる指導が必要である。
A co-facilitated orientation to academic writing in a study abroad program.	共	平成 25 年 3 月	Kansai University of International Studies, Research Institute for Communication, 11, pp. 49-50. 関西国際大学 コミュニケーション研究所研究叢書 11 号	(共著者)Rouault, G., Freeborn, P., Gondree, E. (概要)学習者のニーズおよびレベルを見きわめるための複数のライティング・サンプルを引き出せるようにデザインされ、かつアカデミック・ライティング・コースの要素の提示も行う、複数の講師が共同して行うオリエンテーションの導入を通じたカリキュラム改革の影響を検討した、実践的調査研究(N=33)。

What should every EFL teacher know: A review of a book by Paul Nation	単	平成 25 年 9 月	Teachers Helping Teachers Journal, 第 1 巻 1 号, pp. 82-88	(概要) Paul Nation の著書 What Should Every EFL Teacher Know? に対する書評。その実践的な活動と戦略を検討し、取り上げられていない分野について批評的なコメントを提示している。
Business simulation game for learner collaboration	単	平成 25 年 9 月	Osaka JALT Journal, 第 1 巻, pp. 181-183.	(概要) 教室でのタスクおよび選択ビジネス・コースにおける共働シミュレーションゲームに関する研究レポート。このコースでは、学生たちは言語およびビジネスに関する情報を negotiate する。
Student attitudes and graded readers	単	平成 25 年 11 月	In M. Hobbs & K. Dofs (Eds.) "Independent Learning Association Conference (ILAC) Selections" pp. 134-137 Independent Learning Association ISBN 978-0-473-26805-3	(概要) 選択が可能な、および選択が不可能な条件下における学生の態度について、興味・関心、意欲、楽しさ、自信、不安の各要素に関して調査した実践的研究論文の概要。学生が個別にリーディングを行うプロジェクトと授業における学習活動から得られた結果が意味するものについて、今後の研究の方向とともに述べる。
Review of the book Problem solving in a foreign language: A study in content and language integrated learning, by Lena Heine	単	平成 25 年 12 月	[Special Edition] Asian EFL Journal", 第 15 巻 4 号, pp. 447-450.	(概要) Asian EFL Journal の内容言語統合型学習 (CLIL) 特集号に掲載された、学術論文に対する論評。
Introduction: The research proposal	共	平成 26 年 3 月	In R. Palmer (Ed.) Impact on the L2 Writing Ability of Learners by Explicit Teaching of an ICT-mediated Genre-based Approach to Writing, pp. 4-8 Konan University Soken Research Report 第 121 巻	(共著者) Palmer, R.・Rouault, G. pp. 4-8 research proposal 2 年間にわたる研究プロジェクトとして、甲南大学研究グループ (総合研究) より 160 万円の助成金を受給した研究プロポーザル。本研究の目的は、第二言語 (L2) のライティングの指導および学習を向上させること、およびライティングに関して ICT を通じたジャンルベースのアプローチを明示的に指導することが学習者の L2 ライティング能力に与える影響を調査することであった。
Second language writing, genre, and identity: An interview with Ken Hyland	単	平成 26 年 3 月	The Language Teacher, 第 38 巻 2 号, pp. 13-17	(概要) 第二言語におけるライティング、ジャンル、学問分野の指導および研究に関する著名なエキスパートへのインタビュー。上記の刊行物に発表された。
Principles for teaching large (or any!) classes	単	平成 26 年 3 月	Kansai University of International Studies, Research Institute for Communication", 第 12 巻, pp. 73-74.	(概要) Hess により 2001 年に提唱された大人数クラス指導のための原理は、postmethod era (指導法なき時代) にあっても、クラスの大小を問わず、グループ活動や negotiation of meaning に等しく適用できることを示す理論的考察
Reflections from Cambodia	単	平成 26 年 9 月	The Language Teacher - Outreach", 第 38 巻 5 号	(概要) クメール・ルージュ支配下のカンボジアにおいて見られたような恐怖政治とそれによる大量殺戮をなくすことにおける教育者と教育の役割についての考察を概説する評論。

Learner perceptions of comics as authentic learning materials	単	平成 26 年 10 月	KOTESOL Conference Proceedings [Abstract], p. 152.	(概要) 学生 45 名を対象とし、オーセンティックな英語教材として漫画を使用すること、および会話の語彙や文化認識のための学習リソースとしての漫画 Archies がどのように見られていたかに関する、学習者の考えを調査した実践的調査論文の概要。
Writing for academic publication: Advice drawn from experienced international journal editors	単	平成 26 年 12 月	Language Education in Asia, 第 5 巻 2 号, pp. 186-197.	(概要) 適切な学術誌をターゲットとし、査読および改訂のプロセスを理解することで、論文掲載の承認を得るためのガイドラインをまとめた研究レポート。このガイドラインの多くは国際学術誌の編集者の参加するパネルディスカッションから得られたものである。承認率、編集者からの応答にかかる時間、APA スタイルの表記法に加えて、刊行物における査読の基本、さまざまな学術定期刊行誌の範囲・目的、研究論文の多様なタイプについても述べている。
The 10th CamTESOL Conference	単	平成 26 年 12 月	OnCUE Journal, 第 7 巻 3 号 pp. 40-45. JALT College and University Educators SIG	(概要) 2014 年 2 月、カンボジアのプノンペンで行われた CamTESOL の 10 周年記念版学会レポート。テーマは“English for Regional and International Integration (地域・世界統合のための英語)”である。
Text analysis: A tool for teaching and learning L2 writing	単	平成 26 年 12 月	Teachers Helping Teachers Journal, 第 2 巻 1 号, pp. 53-76.	(概要) 本論では、外国語を学ぶ学生のライティング・アウトプットを評価し、向上させることを目的として、書かれたテキストの分析を教師が活用する方法についての手引きを提供するものである。学生のライティング・サンプルを使用し、ジャンルや談話の結束性、語彙の形・意味、構文、さらには全体的な文章の構造に基づき、テキストの分析および評価を行うためのさまざまな要素を紹介している。
A book review of Visible Learning, by John Hattie	単	平成 26 年 12 月	Doshisha Women's College of Liberal Arts Annual Reports of Studies, 第 65 巻, pp. 61-64.	(概要) 教師はしばしば、教室内で発生することに関し、その直感に依存していることがある。John Hattie が 2009 年に出版した「Visible Learning」では、学習者の学びと達成事項を調査する研究のメタ分析を行っている。本論では、本著および根拠に基づく研究結果を授業に応用する方法に関する主な内容について検討している。
“Only 8,800¥!” TV shopping and infomercials	単	平成 27 年 11 月	JALT Speech, Drama, & Debate SIG Classroom Resources, 第 1 巻, pp. 11-12.	(概要) 学生の参加意欲を高めるための有意義なコミュニケーションタスクには、個々の学生に合わせた活動や具体的な役割が与えられるロールプレイが含まれてよい。一般的なプレゼンテーションのクラスでは、よりドラマティックな役割を演じることを活用する利点が見過ごされていることが多い。この TV ショッピングやイン

				<p>フォーマーシャル(製品やサービスについての詳しい情報を提供する長めのフォーマーシャル)を行うプレゼンテーション活動の目的は、(1) このジャンルを学生が知っていることを活用し、(2) クリエイティブな表現をするチャンスを提供し、(3) 学生が口頭でのプレゼンテーションの重要な点に取り組むように導くことである。</p>
<p>A book review of “Visible Learning for Teachers: Maximizing Impact on Learning.”</p>	単	平成 28 年 9 月	<p>Tezukayama Gakuin University Faculty of Human Sciences, Annual Report 第 18 巻, pp. 25-32.</p>	<p>(概要)カリキュラム策定、シラバス作成、授業計画準備のプロセスを考える際に、学生の学びを向上させるために実際に役立つものは何かに対してさらなる焦点を当てる必要がある。「Visible Learning for Teachers: Maximizing Impact on Learning」(2012)は、可視化された学習および可視化された指導を成功させるための逐次的な手引きを教師に提供している。本論では、本著および根拠に基づく研究結果を授業に応用する方法に関する主な内容について検討している。</p>
<p>Understanding your students and what they understand</p>	単	平成 29 年 3 月	<p>Kodahara – Tezukayama Gakuin University 第 39 巻, pp. 13-22.</p>	<p>(概要)本論は、Peter Filene の著書「The Joy of Teaching: A Practical Guide for New College Instructors」(2005)に触発されて書かれたものである。本著は、個人・職業人としての成長の一部として、大学の教師すべてに対し、学生たちとの関係を築き、学生たちを理解し、また、指導における重要で影響力の大きな双方向のプロセスとして、彼らが理解していることを理解することを呼びかけている。</p>
<p>Another step toward critical thinking: Moving students “to the right answer”</p>	単	平成 27 年 11 月	<p>Critical Thinking and Language Learning, 第 2 巻 1 号, pp. 39-54.</p>	<p>(概要)本論は、TOEFL iBT のリーディング・セクションを主題とし、その設問のタイプを批判的に評価し、解答のタイプを分析し、よく使用される誤った選択肢への対処方法を理解するための方法について述べている。学習参考書の内容、個人的な指導経験、学生からの個別の報告事例やフィードバックをソースとし、学生が正しい解答を見出し、TOEFL のリーディング・スコアを向上させることを支援するため、教師が指導することのできるクリティカルシンキングおよび分析方法に光を当てることを狙いとしている。</p>
<p>Domains and directions in the development of TBLT.</p>	単	平成 29 年(掲載決定済み) Manuscript id: TQ-2016-0300.R1	<p>Special TBLT issue TESOL Quarterly</p>	<p>(概要)本アンソロジーには、タスクベースの言語指導(TBLT)における主要な理論的観点から、約 10 年間の International Conference on TBLT (2005-2013) で行われたプレナリー・スピーチの見解表明および研究概説が収録されている。本書に対するこの論評では、タスクベース・メソッドに関する研究</p>

				およびその実践の進展についての考察と観察を行っている
<b>学会発表</b>				
ER in the classroom and beyond: Practical applications from research	共	平成 24 年 1 月	全国語学教育学会 神戸支部	(発表者)Rouault, G.・Eidswick, J. (概要) (a) 多読に関する授業活動および(b) 多読と自律性の 2 つのテーマに基づき、多読(ER)について考察する口頭発表。リーディング・サークルおよび相互評価に加えて「興味・関心」および「選択」に対する研究の結果に焦点を当てることで、さまざまな実際的な意義を概説する。
Practical applications for the classroom from ER (Extensive Reading) research	単	平成 24 年 4 月	Second Asian Conference on Language Learning (iafor - ACLL 2012) (大阪市)	(発表者)Rouault, G. (概要)リーディング・サークル、相互評価、興味・関心と選択に関する研究を含む、平易化されたグレイデッド・リーダーを使用したリーディングに対する 4 つの研究から得られた教育学上の意味を概説する口頭発表。
ICT-mediated genre-based approach to writing	共	平成 24 年 4 月	Second Asian Conference on Technology in the Classroom (iafor - ACTC 2012) (大阪市)	(発表者)Rouault, G.・Palmer, R. (概要)高等学校および大学レベルのライティングのための、ITC を介したジャンル別アプローチについて調査する研究プロジェクトを紹介する口頭発表。本プロジェクトでは、ライティングの授業で一般的に使用されるさまざまな指導法に加え、学習者が第二言語でのライティング能力を高めるために現在役立っているテクノロジー(存在する場合)について研究を行っている。
Exploring task effects through collaborative writing in jigsaw and dictogloss	単	平成 24 年 5 月	JALT TBL SIG Task-based Learning and Teaching in Asia Conference Osaka Shoin Women's University (大阪市)	(発表者)Rouault, G. (概要) 学習者同士が協力してテキストを完成させる教育的タスクに対する再現性研究の構想を紹介する口頭発表。この研究では、Swain および Lapkin がカナダにおいてフランス語のイマージョン教育を受けている学習者に関して完成させた、jigsaw および dictogloss と呼ばれるタスク実行手順を再現する。
Integrating CALL applications with pedagogical tasks for teaching writing	単	平成 24 年 6 月	JALT CALL 2012 (西宮市 甲南大学)	(発表者)Rouault, G. (概要) タブレット PC 等のテクノロジー・ツールを活用する英語でのジャンル別ライティングの指導と学習を統合する研究について紹介する口頭発表。この研究は、インドネシアの研究者との協力によるもので、研究奨励助成金を受給しており、2 年間にわたって行われる。
An e-course application for academic reading skills: A CALL-based innovation	共	平成 24 年 6 月	JALT CALL 2012 LD SIG Forum(西宮市 甲南大学)	(発表者)Rouault, G.・Freeborn, P. (概要) 海外留学を控えた学生のためのアカデミック・リーディング・コースに、CALL ベースの方式を活用することにつ

				いて述べる口頭発表。語彙増大および TOEFL iBT 受験準備に加え、自主学習を支援する目的で、この e-コース版テキストが選定された。
Functional language analysis for critical literacy in content area reading	単	平成 24 年 6 月	第 11 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2012 年年次大会 (広島市 広島大学)	(発表者)Rouault, G. (概要) カリキュラム全体を通じた語学学習の理論的根拠に基づき、リーディングにおいて、言語の理解および専門分野に関わるコンテンツリーディングに不可欠な能力を高めるツールである機能言語分析について述べる口頭発表。
Functional language analysis for critical literacy in content area reading	単	平成 24 年 6 月	第 11 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2012 年年次大会 (広島市 広島大学)	(発表者)Rouault, G. (概要) カリキュラム全体を通じた語学学習の理論的根拠に基づき、リーディングにおいて、言語の理解および専門分野に関わるコンテンツリーディングに不可欠な能力を高めるツールである機能言語分析について述べる口頭発表。
A parallel-taught orientation to academic writing in a study abroad program	共	平成 24 年 7 月	第 11 回 英語教育セミナー (尼崎市 関西国際大学コミュニケーション研究所)	(発表者)Rouault, G.・Freeborn, P.・Gondree, E.(概要)アカデミックスキル・プログラムにおけるライティング/文法コースを選択する学生の能力およびニーズをよりの確に把握するため、プログラム全体に導入した新機軸についての口頭発表。この新しい方式は、以下を目的として教師間の協力により実行された。 (1)学生のレベル分けに使用するライティング・サンプルの範囲を拡大する、(2)ライティングに関する知識と理解の共通のベースを確立する、(3)留学コースの学生の少人数グループ間で積極的な協力関係を育成する。
Language analysis using graphic organizers for evidence of critical literacy in content area reading	単	平成 24 年 8 月	第 39 回 JACET サマーセミナー (草津町 草津セミナーハウス)	(発表者)Rouault, G. (概要) 機能言語分析の検討に関する口頭発表。機能言語分析は文章を読む際のクリティカルリテラシーを育成するためのツールであり、それには、テキストの構造および談話の特性を詳述することによりアカデミックリテラシーの育成およびコンテンツ学習をサポートし、学習者が分野別のコンテンツに関してよりの確に対応するための戦略の要点を把握する技法が用いられる。
Autonomy in reading: Student attitudes toward choice in graded readers	単	平成 24 年 9 月	Independent Learning Association Conference 2012, University of Victoria, Wellington, New Zealand	(発表者)Rouault, G. (概要) グレイデッド・リーダーの選択に対する EFL 学習者の感じ方を調査した研究に関する口頭発表。2 学期間にわたり、日本の大学の 2 年次の中級レベルの学生 (89 名) が、グループ間での counterbalanced design 方式により、以下の 2 種類の条件で 6 冊のグレイデッド・リーダーを読んだ。(1) 本の選定は教



				師が行い、学生には選択権がなかった(NCH)。(2) 本の選定は学生が行った(CH)。研究に参加した学生からのアンケート結果を集計した。
Functional language analysis for critical literacy in content area reading	単	平成 24 年 10 月	第 38 回全国語学教育学会年次国際大会 (浜松市 アクトシティ浜松)	(発表者)Rouault, G. (概要) カリキュラム全体を通じた語学学習の理論的根拠に基づき、リーディングにおいて、言語の理解および専門分野に関わるコンテンツリーディングに不可欠な能力を高めるツールである機能言語分析について述べる口頭発表。
Exploring task effects in collaborative writing: Designing an ICT-based replication of Swain and Lapkin	単	平成 24 年 11 月	5th International ICT for Language Learning Conference, Florence, Italy	(発表者)Rouault, G. (概要) 文章を書く際に、コンピュータやタブレット PC 等のテクノロジーを活用し、学習者同士が協力してテキストを完成させる教育的タスクに対する研究のためのリサーチ・デザインに関する口頭発表。この研究では、Swain および Lapkin が使用した(この際はペンと紙が使用された)jigsaw および dictogloss と呼ばれるタスク実行手順を再現している。
Principles for teaching large (or any!) classes	単	平成 25 年 7 月	第 12 回 英語教育セミナー (尼崎市 関西国際大学コミュニケーション研究所)	(発表者)Rouault, G. (概要) 大人数クラスを教えることに対する教師の否定的な姿勢または考え方に対処し、個人またはグループ単位での授業のマネジメントや計画策定をよりクリエイティブに行うための基本理念を紹介するワークショップ。
Collaborative ER activities: A study into the elements making reading circles most or least enjoyable	単	平成 25 年 9 月	2nd Extensive Reading World Congress, Yonsei University, Seoul, Korea	(発表者)Rouault, G. (概要) 近日発表予定の研究論文に関する口頭発表。この研究では、授業外でのリーディング活動と授業内でのディスカッションを組み合わせた教育タスクであるリーディング・サークルに関し、学習者が最も楽しいと感じた要素および最も楽しくないと感じた要素について調査を行っている。
(66) Business simulation game for learner collaboration	単	平成 25 年 10 月	第 39 回 全国語学教育学会年次国際大会 ポスター・プレゼンテーション (神戸市)	(発表者)Rouault, G. (概要) ビジネス戦略に関するコンテンツベースの選択コースにおいて、ビジネス・シミュレーションを使用する根拠を概説するポスター・プレゼンテーション。ここでは、「ゲーム」の成績および学生が自己評価により作成した KWL 学習記録から得られた学習証拠も示されている。
Voyages in lifelong learning: Stories of impact	単	平成 25 年 10 月	第 39 回 全国語学教育学会年次国際大会 TED/CUE SIG フォーラム (神戸市)	(発表者)Rouault, G. (概要) 職業人としての経歴の中途において外国語教育分野に転向した人物の個人史に関するフォーラム・プレゼンテーション。ここでは特に高等教育に重点を置き、授業における指導とともに、調

				査・研究、論文発表、他の教育者達とのアイデア交換の重要性について述べている。
Writing for academic publication: A workshop drawn on input from international journal editors	単	平成 26 年 2 月	CamTESOL Regional Research Symposium Phnom Penh, Cambodia 招待による	(発表者)Rouault, G. (概要)招待によるワークショップ・プレゼンテーション。EFL 教育・学習に関する国際的な査読誌の編集者の意見やフィードバックを活用したものである。このワークショップでは、論文掲載の承認を得るためのガイドラインについて述べ、承認率および査読プロセスにおいて編集者からの応答にかかる時間についても説明する。各学術誌の目的や範囲について検討すること、論文を APA スタイルに合わせて編集すること、研究論文の構成についての演習を行う。また、論文の盗用についての説明も含めている。
Insights into TOEFL listening and reading: A workshop for EAP teachers & learners	単	平成 26 年 2 月	10th CamTESOL Conference on English Teaching, Phnom Penh, Cambodia	(発表者)Rouault, G. (概要)TOEFL のリスニングおよびリーディングセクションの問題のさまざまなタイプを簡潔に考察するとともに、それらに解答するための画期的なアプローチを示すワークショップ。ここで提示された複数のアイデアを組み合わせることで、リスニングおよびリーディング問題に取り組む方法を増やすことができ、また、使用されている誤った選択肢を見分けるツールも得られる。
Sustaining a publication stream from ER research	単	平成 26 年 5 月	13 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2014 年年次大会 ポスター・プレゼンテーション (宮崎市 宮崎公立大学)	(発表者)Rouault, G. (概要)研究者・著者となった 1 人の多読 (ER) 教師の学習履歴を検討するポスター・プレゼンテーション。ここでは、学内の ER プログラムのパイロット研究から同僚との共同研究、学会での口頭発表、査読誌および国際的なレフリー付き学会誌への掲載へと発展してゆく経過をたどってゆく。
Publishing your experiences: Insights and possibilities	単	平成 26 年 5 月	13 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2014 年年次大会 ER SIG フォーラム (宮崎市 宮崎公立大学)	(発表者)Rouault, G. (概要)学会誌へ投稿する著者に向けての、国際的な学会誌の編集者から得られた、論文掲載の承認を得るためのガイドラインに関するフォーラム・プレゼンテーション。ここでは、掲載承認率および編集者からの応答にかかる時間についても述べている。
Supporting CLIL through a task-based business simulation game	単	平成 26 年 5 月	2nd JALT TBL SIG Task-based Learning and Teaching in Asia Conference ポスター・プレゼンテーション (大阪市 近畿大学)	(発表者)Rouault, G. (概要)経験的・視覚的な学習を通じた LSP ** を支援し、build subject content knowledge ためのコンピューターベースのシミュレーションにおける英語を組み込んだ学習および意思決定タスクにより補充されるコンテンツベースの

				ビジネス・コースを活用する根拠を紹介するポスター・プレゼンテーション。
TOEFL reading question hints: Don't worry be happy	単	平成 26 年 5 月	14 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2014 年年次大会 (神戸市立外国語大学)	(発表者) Rouault, G. (概要)本ワークショップ・プレゼンテーションは、TOEFL のリーディング・セクションに関する指導を行った授業における経験に基づくものである。正解のためのヒントを蓄積し、誤った選択肢やテストのための戦術を理解するには、問題のタイプを理解することに加えて、解答のタイプを分析することも重要である。教師と学習者が自信を強め、時間を管理し、テスト結果を向上させるための能力を高めるために使用できる演習をいくつか行った。
Teaching writing by putting research and principles into practice	単	平成 26 年 6 月	JALT Toyohashi Chapter (豊橋市) 招待による - sponsored by Oxford University Press	(発表者) Rouault, G. (概要)オックスフォード大学出版局協賛の招待による教師トレーニング・ワークショップ。テキスト、筆者、読者のオリエンテーション** L2 ライティングに関する研究から関連のある知見を紹介し、「ライティングを学ぶこと」およびライティングを教えることに関する教育上の問題、加えて、論争となっているポイントのいくつかについての検討を行っている。また、ライティングを教えることに関するさまざまな原理をそれぞれの教師自身の状況に合わせて調整する方法を考える支援も提供している。
Moving students to(ward) the right answer with critical thinking	単	平成 27 年 11 月	第 41 回 全国語学教育学会 年次国際大会 Critical Thinking SIG フォーラム (静岡市)	(発表者) Rouault, G. (概要) 本フォーラム・ワークショップでは、TOEFL iBT のリーディング・セクションを取り上げ、その設問のタイプを批判的に評価し、解答のタイプを分析し、よく使用される誤った選択肢に対処してスコアを向上させるための革新的な方法を紹介した。提示したさまざまなアイデアの組合せは、すべてのレベルの学生が、より短時間でより効率的・効果的にリーディングの設問に取り組むための選択肢を増やすことに役立つ。
Principles for diagnostic testing in SFL reading	単	平成 28 年 5 月	15 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2014 年年次大会 ER SIG フォーラム (名桜大学)	(発表者) Rouault, G. (概要)研究論文の内容を発表する本プレゼンテーションでは、リーディングの言語・認知的側面を測定するためのテストの例、リーディングの診断テスト (Alderson, 2014) の原則、今後の研究に対する影響を取り上げた。
Mentoring for professional development: A case study of undergraduates seeking teaching licenses	単	平成 28 年 5 月	15 回全国語学教育学会 分野別研究部会 2014 年年次大会 Learning Development SIG フォーラム (名桜大学)	(発表者) Rouault, G. (概要) Learning Development SIG フォーラムで行われた本ポスター・プレゼンテーションでは、職業人としての成長を支援・指導するという新たな手法に関するケーススタディについて報告した (LD

				SIG アウトリーチ助成金受給)。
Task-based simulation game for cross-cultural communication clashes	単	平成 28 年 6 月	3rd TBL in Asia 2014 Conference, (龍谷大学)	(発表者) Rouault, G. (概要) 本ワークショップでは、シミュレーションタスクを使用する際の背景原理のいくつかを紹介し、参加者の異文化間コミュニケーションに関する経験や問題を調査した。参加者たちは、シミュレーションゲームに参加し、デブリーフィングにより、教師である参加者たちは、自分たちが言語や文化、コンテンツを指導する際にそのようなシミュレーションタスクを使用することについて考えることができた。
Diagnostic testing in SFL reading: Characteristics, principles, & implications	単	平成 28 年 10 月	2016 KOTESOL International Conference, Seoul, Korea	(発表者) Rouault, G. (概要) 本研究レポートは、リーディングの言語・認知的側面を測定するためのテストに関する資料から得られた例について考察するものであり、診断テストの特性に焦点を当て、リーディングの診断テスト (Alderson, 2014) の原則を紹介し、それが今後の研究に対して与える影響について述べている。
<b>演奏会・発表会</b>				
なし				
<b>その他の研究発表、演奏</b>				
なし				
<b>その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)</b>				
なし				
<b>研究助成金の受給状況</b>				
<b>科研費の採択</b>				
<b>研究タイトル</b>	<b>助成金タイトル、支給元</b>		<b>研究代表者・分担者の区別</b>	
なし			<b>支給額</b>	<b>支給年度</b>
<b>その他の外部資金による活動</b>				
<b>研究タイトル</b>	<b>助成金タイトル、支給元</b>		<b>研究代表者・分担者の区別</b>	
Impact on the L2 Writing Ability of Learners by Explicit Teaching of an ICT-mediated Genre-based Approach to Writing	甲南学園平生記念人文・社会科学研究奨励助成金、甲南大学総合研究所委員会		研究分担者	
	<b>支給額</b>		<b>支給年度</b>	
	160 万円		平成 23 年度～平成 25 年度	

研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
Research and Travel Grants	JALT Special Interest Groups (LD, ER, CUE, TED)		Research leader	
	支給額		支給年度	
	10万円		平成25年度～平成28年度	
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要		
なし				
学内委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
平成27年5月から平成29年5月現在	帝塚山学院大学 入試委員会委員			
平成27年5月から平成29年5月現在	帝塚山学院大学 国際交流センター会議委員			
平成27年5月から平成29年5月現在	帝塚山学院大学 研究年報編集会議 図書館運営委員			
平成27年5月から平成28年5月現在	帝塚山学院大学 □入事選考委員会委員			
平成27年5月から平成28年5月現在	帝塚山学院大学 □教員採用委員会委員			
社会活動				
学会役員				
就任期間	学会役員名			
平成17年～現在	全国語学教育学会 (JALT) JALT Conference Proceedings 共同編集・閲読者			
平成17年～現在	日本バレーボール協会 エグゼクティブ・インストラクター (国際審判員対象Iスクールにおける指導担当)			
平成20年～現在	全国語学教育学会 (JALT) JALT National Conference 口頭発表応募論文査読者			
平成22年～現在	THT(Teachers Helping Teachers Proceedings) 査読・校閲者			
平成23年～現在	全国語学教育学会 (JALT) JALT ER SIG 発行 Extensive Reading in Japan 校閲者			
平成23年～現在	全国語学教育学会 (JALT) JALT Journal 書評論文編集者			
平成27年～現在	Language Education in Asia 原稿整理編集者			
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共の別	年月	場所	概要
Intercultural Communication in Action: A Workshop Simulation 行動プラス経験で異文化間コミュニケーションを学び、 “異文化交流力”を高めるシミュレーション・ワークショップ	単	平成27年10月24日	大阪狭山市立公民館	一般成人を対象にした公開講座で、異文化間コミュニケーションを学ぶためのワークショップを行った。
学外機関委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
平成17年4月～現在	国際審判員 (国際バレーボール連盟)			
その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項				
平成17年～現在、Cambridge University Press、Oxford University Press、Pearson Longman、Cengage、Macmillan & Routledge等の出版社より出版された以下の教材の校閲を行っている。 English Firsthand Success (Second edition), Pearson Longman Untitled conversation coursebook, Cambridge University Press A World of Difference, The World at Work, Scraps, A Way with Words, Perceptia Press English Firsthand Gold (Fourth Edition), Pearson Longman Q: Skills for Success, Oxford University Press				

World Class, Heinle Cengage Learning  
 Pathways: Reading, Writing, & Critical Thinking, Cengage, National Geographic  
 Lecture Ready (Second edition), Oxford University Press  
 Analysing Texts: A Toolkit for Analysing English Use in Global Contexts, Routledge  
 Communication Explorer, Cengage  
 Speaking of Speech, Macmillan LanguageHouse

**海外での活動**

**海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること**

期間	国名	概要
平成 26 年 2 月	カンボジア プノンペン	Insights into TOEFL listening and reading: A workshop for EAP teachers & learners: 第 10 回 CamTESOL Conference on English Language Teaching におけるワークショップ